



ぬいぐるみに…

一人暮らしを始めた専門学校生の女性(20)はある

晩、交際相手の男性に内証で合コンに出かけた。そこで知り合った男性に家まで送ってもらい、直後にその男性から電話があり、ぬいぐるみを抱きながら話をしていた。

すると、いきなり交際相手の男性が訪ねてきた。男性は「今日は男との合コンで、そこで会った男と帰ってきたんだろ」。女性は驚いた。女性は翌日、友人らに合

家電の電波

傍受され被害

があった。

友人と室内を探した。テーブルの下や照明器具などを考えられるところはすべて調べた。しかし、それらしいものは見つからない。「盗聴器なんて考えすぎだよ」と言つと、友人が「何か彼からもらったものとかない」と聞いてきた。「あつ」と思い、大きな熊のぬいぐるみに目が向いた。

種類さまざま

盗聴の被害実態は統計やデータがないので正確には把握できない。NPO法人「日本情報安全管理協会(JILCOM)」(東京都港区、佐藤健次事務局長)が四月から始めた「盗聴被害なんでもほつとライ

ン」には、八月までで四十件の相談が寄せられた。うち九割が女性だ。

同協会業務企画課の剣木博文課長は「盗聴されていると思ひ込んでいる人も多いが、それでも実際に調査して一割前後は盗聴器が見つかる」と話す。

室内に仕掛けられる盗聴器にはさまざまな種類がある。形状もコンセント型や延長タップ型のほか、電卓、デジタル時計、ペンなど偽装されたものが多く、外見では区別ができない。

また、無線式が一般的だが、無線式にも電池式と家庭の電源から電気を取るタイプがある。電池式は電池交換が必要だが、電源から電気を取るタイプは半永久的に使用可能だ。

盗聴は盗聴器から出る電波を受信機で受けるが電波が届く範囲は百―三百メートルで、その範囲内で盗聴している。

盗

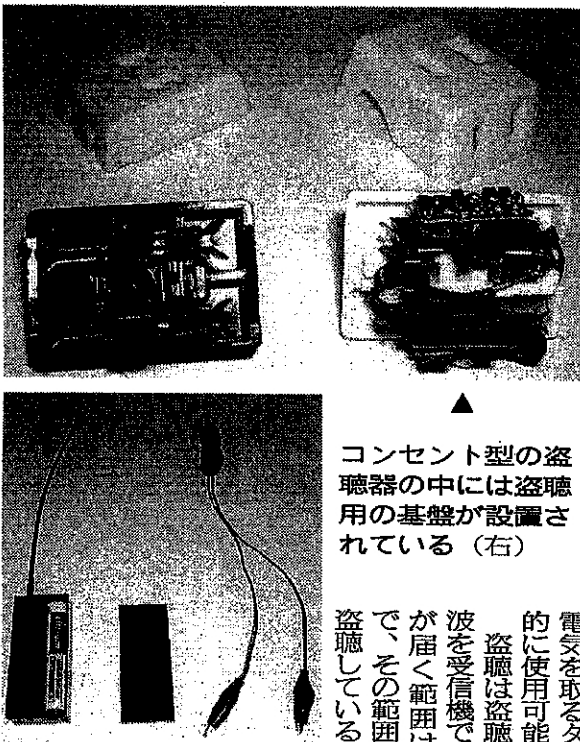
聴

個人情報(ろうえい)の漏洩が相次いでいる。情報漏洩という顧客データの流出など企業イメージが強いが、それだけではない。ごく普通の人を狙われる「盗聴」もその一つだ。盗聴器は東京・秋葉原や大阪・日本

狙われていませんか

橋などの電気街をはじめ、雑誌やインターネットの通信販売で誰でも簡単に入手できる。年間の販売数が30万個とも40万個ともいわれている盗聴器。プライバシーを守るために自衛手段が必要だ。(田中夕介)

器具と手口 巧妙化



コンセント型の盗聴器の中には盗聴用の基盤が設置されている(右)

壁面のコンセント裏側などに設置する室内盗聴器(右)と電池式盗聴器

常に防犯意識持って

注意しなければいけないのは、ごく一般的に家庭で使われているものが盗聴器に早変わりすることだ。

アナログのコードレス電話。コードレス電話は電波を外に発して通話しているため、五十坪程度の範囲内では受信機があれば簡単に盗聴できてしまう。ただし、デジタルならば盗聴されない。盗聴防止用のコードレス電話も販売されている。

松下電器産業が販売しているデジタルコードレス電

話は、盗聴しようとしても雑音にしか聞こえない。企画・開発したパナソニック

コミュニケーションズの国内マーケティンググループ、渡辺暁・主担当は「価格が上がってしまうが、消費者の反応はいい。声を暗号化してから電波を飛ばすデジタル暗号化機能付きの機種を販売しているNTT東日本も「好評」（同広報室）という。

夫婦生活までも赤ちゃんモニターなどと呼ばれるものも盗聴に使われるケースがある。離れた場所に寝かせている赤ちゃんの横にマイクを設置し、感知した泣き声などを受信機に無線で送り、子供の動きを察知するシステムだ。邪魔するものがなければ百ばかりは電波が飛ぶという。モニターのスイッチを切らないと電波が流れたまま、夫婦の会話、さらには夫婦生活まで盗聴される恐れがある。

最近では都市型ストーカーが増えているだけに若い女性には特に注意が必要だ。見知らぬ男性が好意を寄

せ、盗聴に及ぶことも考えられる。

安全生活アドバイザーの佐伯幸子さんは「面識のない相手からストーカー行為を受けるケースが増えている。自分が狙われたり、盗聴されたりする理由を含め、常に防犯意識を持つことが必要」と指摘。

そして、「他人から物をもらったときや引越したときなど日常と違うことがあった場合、意識して調査してみる。『美容と健康』のように意識を持ち、対策費用をかけること」とアドバイスする。

探索資格検定も盗聴器発見サービスを行う引越業者も増えている。「ヤマト運輸」（東京都中央区）の引越し事業を担当している「ヤマトホームコンビニエンス」は十月から開始。入居時ではなく、入居から約一週間後に調査員が調べる。



数種類の機材で電波をチェックし、音や声を拾って盗聴器を探し出す

増える都市型ストーカー 若い女性は特に注意を

探索資格検定も 盗聴器発見サービスを行う引越業者も増えている。「ヤマト運輸」（東京都中央区）の引越し事業を担当している「ヤマトホームコンビニエンス」は十月から開始。入居時ではなく、入居から約一週間後に調査員が調べる。

課長は「お客さまの荷物の中に盗聴器が隠されている場合もある。入居時ではなく、生活が落ち着いたら時点で調査する方が効果的」と説明する。料金は家族の場合が三万五千円、一人暮らしの場合が二万円。関東地方からスタートし、全国展開も検討している。

盗聴器探索はプロの業者に依頼するケースが多いが、信頼性や調査技術、専門知識などが必要だ。このため、JILCOMでは「通信傍受対策技士の資格」

佐伯さんは強調する。「常に防犯意識を持ち、対策をした人から安全になれる」

盗聴被害に遭いやすいチェック項目

- 人からもらった電化製品を使用していますか
 - 新聞受け、郵便受けなどに不審物はありませんか
 - プレゼントにぬいぐるみやペンなどをもらったことはありますか
 - 前に住んでいた人が使っていた物を使用していますか
 - 今使っているコンセントタップは誰かにももらったものですか
 - テレビの画像は乱れていますか
 - 電話中に雑音が聞こえることはありますか
 - 照明器具がチラつくようなことはありますか
 - 今使っている電話は誰かに買ってもらったものですか
 - 無言電話や間違い電話などはありますか。
- ※「はい」が多い場合は「いいえ」が多くなるよう努力が必要。(JILCOM提供)